

平成19年度 教育事業計画

表彰事業

教育研究および教育実践で顕著な業績をあげられた個人や団体を表彰するものです。福武哲彦教育賞は2件、谷口澄夫教育奨励賞は5件を予定しています。

助成事業

1 「教育研究助成」は、先生方の教育研究や有意義な実践に対する助成で、総額は1200万円です。

2 「研究大会助成」は研究発表会の費用を助成するもので、随時申請を受け付けています。

3 「個性的教育を推進する地区・校への助成」は、中学校区などの地区で、小中学校が連携したり、学校と地域社会が連携したりして、主体的に個性的な教育を進めることへの助成です。

4 「英語教育重点地区・校への助成」は、中学校区の小中学校が連携して、または高等学校が「使

える英語」を習得するための授業改善への助成を予定しています。

5 「学力・人間力育成推進事業助成」

「助成」は、学校の教育力・教師の力量並びに地域の教育力の強化を通じて児童生徒の学力・人間力の豊かな育成を図る研究実践に対して助成します。

6 「日中青年交流事業への助成」

は、県内の高校生を中国へ派遣したり、反対に中国の学生を招待したりしながらお互いに交流することによって相互理解を深めるプログラムで、岡山県日中教育交流協議会への委託事業です。

調査研究事業

本年度の海外教育事情調査は、教育委員会などから推薦された県内の先生方約20人で十月初めからインドの学校を1週間程度訪問し調査する予定です。

その他の事業

以上の他にも、研究発表会や講演会の開催および出版物の刊行も予定しています。

(赤松)

【教育事業一覧】

- 1 表彰事業**
 - (1) 福武哲彦教育賞
 - (2) 谷口澄夫教育奨励賞
- 2 助成事業**
 - (1) 教育研究助成
 - (2) 研究大会助成
 - (3) 個性的教育を推進する地区・校への助成
 - (4) 英語教育重点地区・校への助成
 - (5) 学力・人間力育成推進事業助成
 - (6) 日中青年交流事業への助成
 - (7) 英語研修助成
 - (8) 特定教育助成
 - (9) その他の助成
- 3 調査研究事業**
 - (1) 海外教育事情調査
 - (2) 県内教育事情調査
 - (3) 児童英語指導者検定システムの実施
- 4 広報・啓発事業**
 - (1) 教育・文化講演会
 - (2) 教育研究発表会
 - (3) ホームページによる情報提供
- 5 報告書等の発行**
 - (1) 教育要覧(7月)
 - (2) 教育研究叢書(11月)
 - (3) 海外教育事情調査報告書(3月)
 - (4) 財団機関誌「不易」(年3回)

平成19年度 文化事業計画

表彰事業

福武文化賞は、県内の文化向上に著しく貢献した個人・団体に贈ります。福武文化奨励賞は、県内の文化向上に著しい貢献が期待される個人・団体に贈ります。福武文化賞は2件、福武文化奨励賞は5件を予定しています。

助成事業

1 文化活動助成

県内の文化振興と地域の活性化に資するため、伝統的な文化、現代的な文化にかかわる活動や調査研究に対し助成します。

昨年度は応募数97件の中から伝統文化部門19件、現代文化部門56件が助成対象に選ばれました。

2 指定文化財保全助成

国、県等が指定した文化財を保全するための費用を助成します。

3 郷土芸能発表会助成

岡山県郷土芸能振興会が行う「おかやま子ども民俗芸能大会等」に助成します。

4 特定文化助成

地域の文化振興に特に有益と認められる記念的な文化事業に対して助成します。

5 国民文化祭開催関連事業助成

2010年に岡山県内で開催される「国民文化祭」で中核的な役割を果たす岡山県文化連盟の文化力向上事業に対して助成します。

調査研究事業

1 文化活動団体調査

2 歴史資料調査

その他の事業

教育・文化講演会、文化発表会の開催、ホームページによる情報提供や出版物の刊行などを行っています。

(野間)

【文化事業一覧】

- 1 表彰事業**
 - (1) 福武文化賞
 - (2) 福武文化奨励賞
- 2 助成事業**
 - (1) 文化活動助成
 - (2) 指定文化財保全助成
 - (3) 郷土芸能発表会助成
 - (4) 特定文化助成
 - (5) 国民文化祭開催関連事業助成
 - (6) その他の助成
- 3 調査研究事業**
 - (1) 文化活動団体調査
 - (2) 歴史資料調査
- 4 広報・啓発事業**
 - (1) 教育・文化講演会
 - (2) 文化発表会
 - (3) ホームページによる情報提供
- 5 報告書等の発行**
 - (1) 文化要覧(7月)
 - (2) 文化活動助成成果報告書(9月)
 - (3) 財団機関誌「不易」(年3回)

編集後記

◆短い春休みが終わり、学校園の新学期が始まりました。新入園児・児童・生徒・学生の歓声と共に希望に満ちあふれた新年度をお迎えのことと存じます。また、ご活躍中の文化関係個人・諸団体の皆様方におかれましてはそれぞれ本年度の新たな活動計画など策定をされておられることと拝察いたします。

◆さて、(財)福武文化振興財団は、主務官庁の許可を受け三月三十一日に自主解散をいたしました。今日まで同財団が実施しております文化活動助成事業を始め全ての事業は(財)福武教育振興財団が受け皿となり承継されます。

◆文化事業の承継に当たり、同財団の寄付行為の一部(名称・目的・事業内容等)を変更し、四月一日から新しく財団法人福武教育文化振興財団として生まれ変わります。

◆これまで両財団は「教育事業」と「文化事業」とを車の両輪の如く展開して参りましたが、統合により合理的かつ効率的な財団運営を行い、岡山県の教育文化の振興に一層寄与できるよう努めたいと思っております。

◆今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い致します。

(大橋)



財福武教育振興財団設立二十周年

財福武文化振興財団設立十周年に寄せて

「あの頃のこと」

元 岡山県教育長 宮地 暢夫

昭和六十一年四月十九日(土)午後、プラザホテルで内藤一人岡山理大教授(元岡山操山高校長)の「正法眼蔵と現代の出版記念講演会」並びに祝賀会が盛大に開催された。友人代表として出版元の福武哲彦社長、教育関係者代表として私の二人が祝辞を述べた。それに



祝賀会の日の福武哲彦社長と筆者

続く記念講演の冒頭で、内藤教授は、道元禪師の人と思想は私の畢生の研究テーマだが、採算を度外視して本書の出版を引き受けて下さった福武社長の友情と俠気に心から感謝していると述べられた。祝宴では席が隣り合っていたので、福武社長からいつになくいろんな話を聞いた。「私の頭には今の仕事のことが半分ある。あと半分は別のことを考えている。」と、今後の抱負のようなことをほのめかされた。まだ先の話だろうと私は軽い気持ちで聞いていた。

一週間後の二十一日、福武社長の訃報に接して驚天動地、耳を疑った。前日普通に出社して業務に当たっておられたが、夕方体の不調を訴え、榊原病院へ緊急入院してその日の中に亡くなられたという。信じられないような話だった。

第27号
平成19年4月1日
財団法人
福武教育文化振興財団
〒700-0807
岡山市南方3-7-17
TEL.086-221-5254
FAX.086-232-3190
http://www.fukutake.or.jp/
制作 (株)吉備人

平成十九年度

教育研究助成等の募集開始について

①教育研究助成

本年度も下記のような研究や活動について助成します。学校園全体の教職員による取り組みについては上限額50万円、個人またはグループについては上限額20万円です。

②研究大会助成

教育内容・方法等の研究成果を発表する研究大会の開催を助成として助成します。上限額は30万円です。予算の範囲内で随時受け付けますのでご連絡ください。

●対象(応募資格)

①岡山県下の学校園の先生方や教育関係者及び保護者の方々を対象に助成します。

●応募方法

「教育研究助成」に応募される方は、学校園または教育委員会へ配布している所定の申請書に必要事項をご記入の上、財団事務局あてに郵送してください。応募期間は、4月22日から5月7日(必着)までです。

●応募先

申請書は、いずれもホームページからダウンロードすることができます。

●「英語教育重点地区・校助成」及び「個性的教育を推進する地区・校への助成」を今年度も若干募集します。

また、昨年度から開始しました「学力・人間力育成推進事業」についても合わせて若干募集します。これらの申請書につきましては直接財団事務局にお問い合わせください。

教育研究助成対象種別

- ①基礎学力の育成
(教科指導、教材開発、教育課程開発等)
 - ②「コミュニケーション」力の育成
(国際理解、小学校英語、郷土学習等)
 - ③情報活用力の育成
(IT機器活用、情報教育の推進、図書館利用、NIE活動等)
 - ④生きる力の育成
(道徳総合・特活・生徒指導等)
 - ⑤学校・家庭・地域の教育力の育成
(学校経営、PTA活動、地域連携等)
 - ⑥出版印刷物の作成
(教育に関する調査・研究内容に限る)
- 詳細については募集要項または当財団のホームページをご参照ください。
問い合わせ先
財福武教育文化振興財団(赤松まで)

までいて辞去した。財団の事業は昭和六十二年度から始動し、七月に第一回の福武哲彦教育賞、教育研究助成、図書贈呈式が行われた。以後、年ごとに内容の充実、規模の拡大が計られ、平成八年には文化部門を分離して「文化振興財団」が新設された。この頃になって私が時に思うのは、あの内藤教授の祝賀会の席で前社長が言われた「今の仕事の外に考えている半分のこと」とは、あるいは現在の教育文化両財団の事業と重なっているのではないかと、とすれば両財団の事業は、顕彰の意義を見事に果たしているといえるだろう。然し、前社長の志はもつと高く、もつと大きいところにあつたのかも知れない。それは私などの伺い得ないところである。

(福武教育振興財団 前副理事長)

平成18年度 福武文化奨励賞を受けて

「ゼロが気づかせてくれた喜びの原点」

就美大学人文科学部表現文化学科 岡本 悦子



「ゼロに戻る訓練」と題する中野孝次の提言に触れた。彼は、すさまじく悲惨な体験をしたにもかかわらず、命にあふれた顔をした某国の子どもたちと「一方自分が何のために生きていくのかわからない」と、生への願望を感じさせない日本の子どもたちとを比較してこう述べる。「生の喜びを本当に知ろうと思うなら、過剰を捨て、ゼロに身を置き。幸福とは、自分を受け入れること。外なる物に依存した生き方をしているのは得られない」と。過剰な豊かさは、プラスの上にプラスを求め、習性を生み、そこに抑制が効かなくなると、人はその限りなきゆえ無力感に陥るとのことなのかと考えさせられた。

7年前娘に不治の障害が発覚し、療育に奔走した。そこで

出会った多くの人々の温かさや厳しい職業意識に触れて、私は自分の表現活動に対する後ろめたさをぬぐいきれずにいた。より「生きる」ことに密着した職業の数々を目の当たりにして、「自分の好き」を追求する創作活動がどれほどの意味を持ちうるのかと迷った。コンボラだ、オリジナリテイーだと自らを通す価値が私にあるのか？

実際、表現者としての活動は、一層重くなった母の役目、また職務とのバランス上、困難となった。その半年後、私は癌を患った。今後残された時間はやりたいことでなく、やるべきことの実践と心したもの、それは必ずしも生きる喜びには直結しなかった。そのとき、ふと思いついた。好きな人好きなもの、ただかでも真に触れ合えれば私は充分幸せだと。



おやかま国体開会式典演技「豊かな収穫」シーンの練習風景

死に直面した私を支えたのは、外に依存した価値でなく、自分ごときではあるが「自分の好き」と共にありたいという願いだ。どんな自分をも引き受けて、自分の「好き」に心をなごませる。そこにも私の幸福はあった。もし、私が創る「私の好き」な世界が、どこかで誰かを支えることができたなら、それは私のこの上ない生きる喜びである。「好き」の内なる基準をひたすら磨き続けよう。そう心に誓っている。

(采えある受賞を機に感謝を込めて)

平成18年度 教育研究助成を受けて

「韓国との交流について」

岡山市立御野小学校 内田 正夫

岡山市が韓国富川市との姉妹都市縁組を結んだことを受け、本校と富川市如月(ヨウォル)初等学校とは姉妹校になりました。

そこで本校では、「国際感覚豊かな子どもを育成」を目標に掲げ、韓国理解学習を取り入れ、韓国交流活動を実施しています。それに際して、福武教育振興財団の教育助成により大きな支援をいただき感謝申し上げます。11月23日(木)〜25日(土)の3日間、4〜6年児童13名と地域の方2名と教員5名が同行し、訪韓してまいりました。

如月初等学校での交流会で



ヨウォル初等学校の歓迎出し物



御野小学校の出し物



お土産交換会の様子

は、韓国伝統文化の演技に圧倒されました。一方、本校児童は自分たちの良さや岡山をアピールできる出し物(桃太郎の劇、銭太鼓など)を主体的に考え、練習を重ねてきた成果を発表しました。お互いの出し物の交流と同時に拍手の中、友情の交歓がなされたものと確信できました。また、2泊のホームステイでは、言葉の壁を越えた友情がはぐくまれ、その友情は深い絆としていつまでも続くだろうと思われま。今後も広い視野をもつ国際人を育てる一つのきっかけとして、如月初等学校との交流を長期展望をもって継続させていく必要を感じています。

「随想」

「歌雑感」

岡山県中学校長会 会長 佐川 弘治郎



「桃太郎さん、桃太郎さん…昔々浦島は…指に足りない一寸法師…」私は小学一年生の時、頭に浮かぶに任せて次々とお伽話の歌や童謡をメドレー的に歌いながら学校から帰ったものです。時には友だちと肩を組んで大きな声で歌いながら帰ることもありました。私は母から数えきれない程の歌を教わっていました。尋常小学校しか出ていない母でしたが、どこで憶えたのか、たかさんの歌を知っていました。教わった歌の中には、「水師營の会見」や「桜井の別れ」など、子供向けとは思えないものもありましたが、多くは童謡や文部省唱歌でした。当時の私にはそれらの歌詞の意味をあまりわからずに歌っていたのです。

が、なにか心を打つものがあり、それぞれの歌の良さを感じ取っていたと思います。

小学校の音楽の授業では、ほとんどの時間が歌唱であり、歌の好きな私は楽しく歌っていました。成績は「今少し」でした。「荒城の月」を習ったとき、意味もわからないままにも、その美しさを感じたことを憶えています。曲はもちろんです。が、歌詞「春高樓の花の宴…」は、私には「はるこうろうのはなのえん…」と平仮名に聞こえ、美しく響きました。歌詞を「ことば」としてではなく「響き」として感じていたように思います。「さざりきゆる、みなとえの」ほととぎす、はやくもきなきで「ちじょうにふりしく、くすしきひかりよ」など、当時の唱歌は古文調で小学生には難解なものが多くありますが、かえって美しさを感じさせると言えるのかも知れません。

その後、たかさんの歌と出会いました。一人で歌うだけでなく、友だちなどと歌うと楽し



(福武教育文化振興財団 評議員)

さに加えて人間関係の深まりを感じることになりました。また、教師になって、若いころには「私の好きな歌」という身勝手な理由で選曲した歌を、生徒と一緒に歌うこともありました。二十数年後の同窓会で、一人の卒業生がその歌を口ずさんでくれた時は、感激するとともに歌の持つ力を感じました。

先般、文化庁などが主催する「親子で歌いつごう 日本のお歌」が発表されました。人間関係が希薄になる社会にあつて、その目的を「歌を通じて家族が触れあう機会を増やすとともに、貴重な歌の文化を後世に継承し、世代間をつなぐこと」としています。

歌は心を豊かにし、人間関係を深め、元気を与えてくれます。たかさんの歌を歌い継ぎましょう。

海外教育事情調査同行取材 テレビ番組が放送されました!

この番組は去る九月二十六日から十月二日の七日間、福武教育振興財団がフィンランドで実施しました海外教育事情調査団に(株)山陽放送の記者が同行取材をし、現地で撮影された映像と帰国後のスタジオ収録部分で構成された五十四分番組で、題して「明日の教育プロジェクト」に学ぶ」に学ぶ」

「子どもたちを取り巻くまぐろしいほどの教育環境の変化。その中で、教育そのもののあり方がいまだ大きく問われている。本当に必要な教育とは?子どもらしさとは何か?先生は、親は、大人は何かできるのか?」

世界一の教育先進国と言われフィンランド。高学力の裏には歴史と伝統に培われた独特の教育文化がある。

そこで、昨年九月、その世界一の教育に生で触れようと、岡山から二十三人の教育関係者がフィンランドの地に降り立った。小・中・高で教鞭をとる現役の先生、教育委員会関係者などで構成されたフィンランド教育事情調査団だ。

彼らは、現地で様々な教育事情を目のあたりにする。子どもたちの自発性、教える技術の向上(先生自らスキルアップ)、教育環境の充実、心の教育:etc.



番組収録の様子